

～マコモタケの株掘り作業～



4月1日午後。酒田市八幡地域マコモタケのほ場です。



八幡地域では、水田の作業が忙しくなる前に、マコモタケの株の掘り起こし作業を行っています。

マコモタケは、水田の貯水機能そのままに栽培を始められる作物として、遊休農地(水田)の解消にはもってこい。排水対策いらずの転作作物として注目され、産地化が進められてきました。

(詳細は下記アドレス 広報誌norari vol.10『特集 耕作放棄地の今』をご覧ください。)

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari/vol10/norari10-HP-P01-P20.pdf>

本日は、耕作放棄地対策として試験的な栽培を始めようと、寒河江ランドワークの方々が見学に来ました。



いい親株の見分け方



生命力旺盛なため、根を切っても新芽が出る



よくみると新芽が！

親株を掘った後、これからの作業の方法、栽培のコツを伝授していました。
農家の高齢化や減少により、地域の農地をいかに守り、集落を維持していくか。
地域にとって高収益となる作物は何か、……各地で検討、模索が続いています。
さまざまな試みが、農村を守る一手となるよう、県内の情報を地域につなぐお手伝いができればと思います。

本日から29年度が始まりました。
今年度も、庄内の“旬”を皆さまにお届けします。
よろしくお願い致します。

～鳥海山融雪状況～



昨日、酒田市で桜の開花宣言がありました。
降雨と気温の上昇により、鳥海山の雪も少しずつ融け始めていますが、“種まき爺さん”は、まだ現れていないようです。



4月10日 酒田市飛鳥から鳥海山を眺める

庄内地域では、今週末から各地で種まき作業が始まります。

◇種まき爺さん◇ 4月下旬～5月上旬、気温の上昇とともに鳥海山の雪が融け始めます。鳥海山の山肌の雪が部分的に融け、その状態が種をまいているお爺さんのように見えることがあります。種まき爺さんの姿が現れるようになると、庄内では田植えや畑の種まきの時期を迎えます。

～農地地すべり巡視員 委嘱式～



農地地すべり巡視員は、地すべり防止区域を適正に管理することを目的に、日常点検と豪雨や地震等発生時の緊急点検をお願いしている方々です。

4月12日、今年度巡視員として活動いただく方々への委嘱式が行われました。



これまでの活動のお礼と今年度の協力の依頼

庄内管内で県が管理する農地地すべり防止区域は5箇所。

区域毎に1名ずつ配置されている巡視員の方々は、いずれもベテランで、今年で11年目を迎える方が3名います。

その地域に住んでいるからこそ、いつもと違う、という感覚で早期発見し、異状を察知する。管理者として気付けないところをフォローしていただき、地域の安全安心のため大事な役割を担っていただいています。



自らの安全を第一に点検をお願いします



各地区の状況について情報交換

4月26日から各区域の融雪期定期点検が始まります。

農地地すべり巡視員の方々の仕事と地すべりのメカニズムについては、こちら。
やまがたの農山漁村づくり情報マガジン農楽里norari vol.3(特集 地域力)

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari/vol3/norari3HP-P01-P20.pdf>

～庄内砂丘地区農村地域防災減災事業 推進工～



庄内砂丘では、露地栽培とハウス栽培を組み合わせ、年間を通じて、メロン、野菜、花卉が作付けられています。

近年、降雨量の増加により地下水位が上昇し、農作物の作付けや作物の品質低下など営農に支障をきたし、経営を圧迫する深刻な状況にありました。

事業により地下水を円滑に排除し、農家の経営安定を図る目的で工事を進めています。

地下水を集め日本海に排除するため設置する管路推進工事也大詰めとなっていることから、4月12日、14日の両日、現場研修を行いました。



地区及び工事の概要を説明



推進管吊り下ろし



7m降りて工事の状況を見学



管路接続状況を上から見学



掘削マシンの向き等を管理し掘り進める



放流工の作業状況

庄内砂丘の支援にあたっては、関係各課との連携が重要です。14日の研修は、農業技術普及課、産地研究室、酒田農業技術普及課も参加しました。

桜が開花し、日差しに暖かさが増してきました。

庄内砂丘における露地メロンの定植作業は、4月20日ごろから始まります。

～鳥海山融雪状況と桜～



今週初め、庄内各地で桜が満開になりました。
庄内では、17日午後から19日夜にかけて強い風が吹いたため、きれいな桜が見られるのも、今週末までとなりそうです。



満開の桜と水仙(酒田市)



小牧排水路沿いの桜並木(酒田市)

鳥海山の種まき爺さんも少しずつ、姿を現してきました。



4月17日曇り 鳥海山もドンヨリ



4月20日 酒田市広野から望む



種まき爺さんのシルエットがかすかに見えてきた？

管内の土地改良区では、用水を安定供給するため、施設の最終点検が行われています。

田植え作業は、5月の連休明けから本格的に始まります。

～鳥海山・月山と花々～



今日からゴールデンウィーク後半。
庄内は、スッキリと晴れました。鳥海山と月山、両方の山がくっきりと見えます。



月山



鳥海山と刈屋梨の花



鳥海山と三川町の菜の花

もうすぐ田植えが始まります。

～西郷北部地区で直播栽培～



5月5日。西郷北部地区1.5haの大区画ほ場において、水稻直播実演会が行われました。

これからの水田農業において中心となる担い手(大規模経営体・集落型法人経営体)の規模拡大に対応するため、県は平成27年から実証ほを設け、調査しています。



GPSで曲がらずに播く 8条植え



鉄コーティングした種子



10粒ずつ点播

【実証のポイント】

- ①安定栽培: 適切な水管理による出芽促進。除草剤の適期散布による回数削減。
- ②省力化: 基肥一発肥料。自動給水栓、地下かんがい施設の利用。
- ③低コスト: 作業機械の効率的利用。

播種したのは、水稻新品種『雪若丸(ゆきわかまる)』。

出穂期や成熟期は、「はえぬぎ」とほぼ同じで「つや姫」より約1週間早く、粒が大きいのが特徴です。「はえぬぎ」は雪若丸のおばあちゃんにあたります。

～鳥海山融雪状況～



5月9日晴れ。

どの角度から眺めると、最も爺さんらしいのか。

種まき爺さんは、鳥海山の向かって左側 筈ヶ岳(しょうがだけ)の南斜面に現れます。

悩みながら、ベストポジションを探しました。



庄内町深川から



酒田市出羽大橋から



酒田市穂積から



左写真のアップ

ついに、種まき爺さんの全容が明らかに！

『種まき爺さんの観察』は、今回で完結。庄内各地で田植えが始まりました。

～これからもよろしくお願ひします～



樹齢200年を超える鶴岡市大網(旧朝日村)の七五三掛桜(しめかけざくら)。



昨年5月4日には葉桜になっていましたが、今年は満開の状態を見ることができました。

(第312回 H28.5.4連休の七五三掛桜 下記にアクセス)

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/shonai/337046/renkyushimekake.html>



2009年に種から育てた幼木

N.N.REIKOIは、今回で400回。

これからも、皆さまに愛されるHPを目指して、庄内の『旬』情報をお届けします。

3代目、気持ちも新たにがんばります。

～融雪期点検の結果を受けて～



庄内管内で県が管理している農地地すべり防止区域は5箇所。
4月下旬に融雪期定期点検を実施し、地すべり防止施設のメンテナンスが必要な区域について、作業を実施しました。
写真は、添川の水抜きボーリングの吐出しを受ける水路。



作業前



作業後 落葉等を撤去してきれいに

今年度から、地すべり防止施設の長寿命化を図るため、国の補助を受けて補修・改修ができるように事業が拡充されました。

それを活用して、今後も適正な管理に努めていきます。

最後の孟宗掘り&田植え体験

～水土里ネットいなば 田んぼの学校～

水土里ネットいなばの恒例行事、孟宗掘り&田植え体験が行われました。

孟宗掘りは、毎年盛況です。



慎重に慎重に・・・

孟宗掘りの後は、田植え体験。



植え方のポイントを聞く



みんなでやってみよう



慣れて楽しくなってきたよ

作業の後は、楽しい昼食。



たくさん準備いただきました



水土里ネットいなば 特製！孟宗汁

昼食後は、恒例のクイズ大会。おなかも心も大満足の1日となりました。

竹林では、イノシシの被害が見られるようになったとのこと。それにより、孟宗掘り体験は今年で終了となりました。

これまで掘らせてくれた竹林と、体験活動にご協力いただいた上林さんに感謝。

庄内地域の森林を守る上林さんの思い、孟宗掘りのコトはこちら。

『農楽里norani』vol.4 春を探しに出かけよう

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norani/vol4/norani4HP-P10-P11.pdf>

～やまがたの棚田20選 暮坪～



県内唯一、海が見える「暮坪の棚田」。今年も、暮坪集落の子どもたちが田植えを行いました。

5月14日、平野部は強風に見舞われたものの、海岸沿いは風の状態で、岩場では釣りを楽しむ人の姿も。

棚田からは、穏やかな海を眺めることができました。



形付け作業は、八角形の木型(かたわく)を使うのが一般的ですが、暮坪では『押しぐるま』を使って、線を引きます。



押しぐるまによる形付け作業

田植え体験でまっすぐ植えるための道具についてはこちら。

『農楽里(norari)vol.4』春を探しに出かけよう

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari/vol4/norari4HP-P06-P07.pdf>



毎年やっているのも慣れたもの



お疲れ様。みんなで記念撮影

この田んぼで収穫したお米は、毎年、集落の1人暮らしのお年寄りにおすそ分けしています。

あずまや脇の田んぼにはもち米を植え、11月にはもちつき大会を計画。今年も楽しんで、おいしいお米をつくります。

～庄内町立余目第一小4年生～



ほ場整備事業をきっかけに、小学校と地域と一緒に、メダカの保全や環境学習を行っている庄内町家根合地域。

昨年は、NPO法人家根合地域環境保全センターが“環境やまがた大賞”を受賞し、今年の活動も更に力が入ります。

5月18日、庄内町立余目第一小学校4年生39名が田植え体験を行いました。



活動のきっかけを佐藤理事長が説明



田んぼの水はどこから来るの？
最上川土地改良区が解説



泥の感触に声を上げながら形付け作業



泥に足を取られながらも一生懸命



足をきれいに洗って終了

天候に恵まれて、初めての田植え作業。

泥んこのお土産付きでしたが、みんな笑顔で楽しく作業ができました。

農村計画課は、今年度も地域の皆さんの気持ちを盛り上げるための活動をお手伝いしていきます。



八角形の木型(かたわく)

～鳥海山をいろいろな角度から～



今日は、雲ひとつない青空でした。
いろいろな場所から、鳥海山を撮ってみました。



母狩山から鳥海山を見る



庄内平野を潤す赤川頭首工からの鳥海山(写真左上)

庄内は、ほぼ田植えを終えました。
農作業の安全と順調な生育を祈ります。



夏に涼しげな花を咲かせるあさがお。
今年もベランダで育てることになりました。



まずは支柱を準備



あさがおをイメージして



支柱設置翌日



種を播きましょう



種まき終了。芽が出るのが楽しみです。

昨年は、あさがおの苗をいただき、プランターに植えました。
今年は、昨年咲いた花から採った種を播くところから、始めます。
無事に芽が出るといいなあ。

こんな花を咲かせます。

NN. REIKO 第323回 平成28年6月8日『アサガオ開花』

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/shonai/337046/asagao2806.html>



今年、バケツ稲にも挑戦。
5月22日に芽出しのため水に浸した種もみは、4日後の26日、5mm程の芽を出しました。
あさがおの隣で育てます。



芽を出した種もみ



バケツに種まき



蚊日はスズメ対策のためかご等を設置

種まき終了。どのように成長していくか、これからの観察をお楽しみに。

これは、何の蕾でしょうか。



5月24日



5月25日



5月26日 開花

答え:昨秋に植えた春菊の花
春菊は葉をどんどん収穫するため、初めて花を見ることができました。



農村計画課のベランダ

～鶴岡市温海 越沢集落～



鶴岡市越沢「まやのやかた」において、温海地域の東南端に位置する「摩耶山」の山開きに合わせ、「寒ざらし」の越沢三角そば150食が販売されました。

越沢三角そばは、越沢集落で伝えられてきた在来作物。「寒ざらし」は以前から取組んでいたものの、それを提供する春のイベントは初めての試み。



ようこそ「まやのやかた」へ

そばを味わりに並ぶお客様



豊かな自然の恵みを直売

これが寒ざらし三角そばセット

昨年度、自治会では地域おこし協力隊を含めた住民20名による「越沢活性化委員会」を立ち上げ、「自然、文化、住民がいざいぎと心ふれあう、豊かで安心して暮らせる地域づくり」を目的に「越沢自治会活性化ビジョン(越沢のめざすべき将来像)」を策定しました。

地域住民自ら創りだし、描いた「越沢自治会活性化ビジョン」。無理をしないで、できるところから・・・

越沢の取組みが動き始めました。

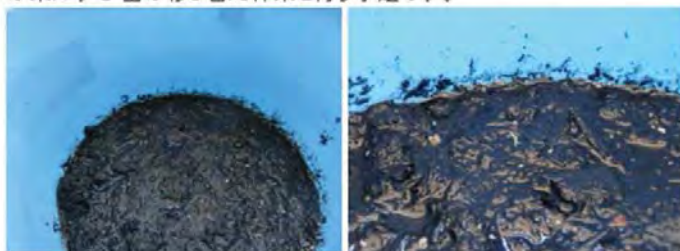
～ベランダでおおきなあれ～



5月24日に種を播いたあさがお。
5月29日、無事に芽を出しました。



バケツ稲も小さな芽が出てきました。葉が3～4枚に増えたら、そっと抜き、4～5本の束にする 苗の移し替え作業を行う予定です。



～2017春号 配信しています～



元気な農山漁村を作っていきたい、農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい…『農楽里norari』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、既に参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する“職員手作り”の情報誌です。

春号は、5月19日に山形県HPにアップされました。

<http://www.pref.yamagata.jp/purpose/koho/kohoshi/6140017norari.html>



今回の特集は、農村の春…。

無事に実りの秋を迎えるための準備 鳥獣害対策、安定的な用水供給のために働く土地改良区の仕事、独特の味や香りで春の訪れを告げるやまがたの山菜を全国、世界に発信。

庄内の話題は、水土里ウォークにて遊佐町八面川(やつめがわ)を紹介しています。

ぜひご覧ください。

～地域づくりワークショップについて～



6月3日、地域ふれあい講座の申し込みをいただき、鶴岡市農村センターに行ってきました。

農村部では、急激に核家族化が進み、住民同士のコミュニティが薄れつつあることから、元気な地域づくりのきっかけにしようと、本講座に申し込いただきました。



大泉地区自治公民館連絡協議会の大泉地区公民館長・主事の方々26名が集まりました。

子ども数の減少により、学校が統合になるほどの状況ではないものの、地域住民の高齢化や減少により、これまで実施してきた地域活動の継続に苦労しているところもあるようです。



地域づくりワークショップについて説明

いま、地域みんなで集まって話をする“場”が不足しています。地域づくりワークショップにより、地域の良さを再認識したり、将来について話し合う“場”をまず作ることから始めてはどうかと提案しました。

農村計画課では、地域を元気にするための活動を支援しています。

取組んでみたい地域がありましたら、企画担当までご連絡ください。

お手伝いさせていただきます。



大泉地区自治公民館連絡協議会の皆さん

皆さんに興味を持って取り組んでもらえるような説明って、難しいなあ。経験を積んで、うまいになりたいと思います。

～庄内のさくらんぼ 召し上がれ～



6月に入り、鶴岡市榊引地域のさくらんぼ、ぶどう、りんご、なしを紹介する『くしびき観光果樹園紹介所』がオープンしました。

本日、その開所記念式典が、産直めぐりで行われました。



園児と一緒にテープカット



くしびき南部保育園園児による「さくらんぼ体操」

庄内管内には観光さくらんぼ園が15箇所あり、6月7日から開園しています。

「やまがた庄内 さくらんぼ」のノボリ旗が目印。

詳しい情報は、「庄内観光 さくらんぼ」で検索してください。

(<http://www.mokkedano.net/course/cherry/>)

もぎたてを味わってみよう。

また、「食の都庄内さくらんぼフォトコンテスト2017」も実施中です。

「庄内にさくらんぼのある風景」「庄内のさくらんぼ狩り」をテーマに、受賞作品は庄内のさくらんぼPRに活用させていただきます。奮ってご応募ください。

<http://www.pref.yamagata.jp/pickup/interview/pressrelease/2017/04/24163117/>

～安全安心 めだかの里米～



庄内町家根合地域のめだかの里米水田において、ふれあいホーム家根合の児童26名と家根合地域の子どもたちによるメダカの放流が行われました。



本日放流するメダカ



ひとりひとりに5匹ずつ手渡し



みんなで一斉に放流



泳いで行っちゃった

家根合地域120haのめだかの里米水田へのメダカの放流は、5月31日に行われました。

この地域では、メダカが田んぼに棲んでいる間、農業等を使いません。安全安心な米『めだかの里米』として作付されています。

大人も子どもも、地域みんなが関わって、環境保全を意識した活動を継続しています。

放したメダカは、7月下旬の中干し前に捕まえて、メダカ保全池へ引越す予定です。

～庄内赤川土地改良区管内研修～

6月16日、庄内赤川土地改良区管内の現地研修が行われました。



井岡・岡山地区の農地の現状



天保堰 トンネル部分



河床直接取水(バースクリーン工法)

農地整備事業が計画されている地区の現状を確認した後は、歴史的施設を巡り、用水確保の苦勞に思いを馳せました。



月山筍のお汁

現地研修の後は、旬の月山筍をいただき、おなかも心も満たされました。

～日向川土地改良区ため池神社例祭～



6月16日、先人の労をねぎらい、平成29年の五穀豊穡を祈願する「ため池神社例祭」が、日向川土地改良区が管理する教河ため池(すこうためいけ)、堂見沢ため池(どうみさわためいけ)、五台ため池(ごだいためいけ)で行われました。



教河ため池



教河ため池の神社で祈願



富樫理事長

適時的確な点検と維持管理を行うことにより、ため池が守られ、管内の水田を潤しています。

土地改良区は、先人の思いを引継ぎ、用水を安定供給するために、頑張っています。

～農村環境保全指導員研修会及び意見交換会～

6月19日(月)、最上・庄内管内農村環境保全指導員と市町村担当者を対象とした研修会及び意見交換会を行いました。

農村環境保全指導員同士の交流の機会が少なくなっているため、昨年度は、庄内管内の農村環境保全指導員の活動の状況や実施にあたって苦労しているところなどを情報交換しました。

今年度は、そのネットワークを更に広げ、自らの活動に生かしていただくこと、最上総合支庁との合同開催で企画しています。

本日はその第1弾。

立川地域の小野寺指導員からは、活動のフィールドとなっている荒鍋内川公園において、昨年度の活動を報告いただきました。



小野寺指導員



荒鍋内川を見ながら説明を聞く

次に、八幡地域の高橋指導員からネイチャーゲームについて説明いただき、参加者全員で体験してみました。

【ネイチャーゲームとは】

自然に関する特別な知識がなくても、自分の五感を通して自然を感じ、分かち合うことができる。その活動は160種類以上。

ネイチャーゲームは、ネイチャーゲーム指導員の資格を持つ者が場を運営する。参加者の年齢層や状況を見ながら、事前に現地調査を行い、暑さ対策等の危機管理を徹底して活動を計画する。その場にあった活動を組み立てることで、参加者が環境や自然を意識し考える、意義のあるものとなるよう、ネイチャーゲーム指導員は日々研鑽を積んでいる。



高橋指導員



はじめましてカードでアイスブレイク



「カモフラージュ」隠れた人工物を見つけよう！自然にまぎれる虫やゴミについて考える

研修の後は、「道の駅しょうない」に移動し、意見交換を行いました。



多くの指導員から「楽しかった」「貴重な体験ができた」との感想をいただきました。子どもたちに楽しく参加してもらうため、ネイチャーゲームを活動に取り入れてみたい、という積極的な意見も。



鶴岡地域 鈴木指導員



三川町 菅原指導員

活動にあたり、子どもたちや若い世代へどのように継承していくか…高い志で、地域活性化のために頑張る皆さんの活動も、ひとりで頑張るには限界があります。

皆さんが持っているさまざまなスキルを補充し合い、活動の幅を広げることができるよう、市町村の皆さんと共に県も支援していきます。

～定期点検と雪囲い撤去～



大鳥ダムは、山形県と新潟県にまたがる朝日山系の以東岳(いとうだけ)の北麓、ブナの原生林に囲まれた標高966mの高所にあり、最大水深68mの自然湖。
最寄りの林道から約8km、徒歩で3時間。大鳥集落在住の施設管理人と土地改良区職員は、6月から10月まで月に一度水門の整備と点検に行っています。

6月21日、雪囲いの撤去と点検のため大鳥ダムへ向かいました。



山道には、まだ雪が残っています



水門格納庫の雪囲いを外し、以東岳への登山道ともなっている堰堤に手すりを設置

大鳥ダムは、明治20(1887)年に調査を開始し、昭和9(1934)年に池流出口に制水門を築造。3mを堰上げし、新たな水源として1,142千 m^3 を確保。平成2(1990)年に全面改修を終えてからも、干ばつ時の最後の頼みの水として今も重要な役割を果たしています。



本日、東日本の梅雨入りが発表されました。
雨の中での作業となりましたが、先人の思いを引継ぎ、用水を安定供給するために、頑張っています。

～農村環境保全指導員の活動状況6～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

6月30日(金)、鶴岡市朝日地域の田口比呂賞農村環境保全指導員が大鳥音楽祭の前夜祭企画として「大鳥BAR(バル)」を開きました。

BAR(バル)は、日本でいえば居酒屋のようなところ。スペインでは、どんな小さな村にも朝から晩まで開いているBARがあり、地域に住む方々が気軽に立ち寄る憩いの場となっているのだとか。

気軽に立ち寄り、楽しい会話で食事をしよう、と地域の方々をはじめ、遠くは神奈川県の方もいらっしゃいました。

「大鳥BAR(バル)」では、田口指導員が地元の古老から聞き取りした、かつてのぜんまい小屋等の記憶をまとめたパネル『大鳥と山菜』について、集まった方々に説明しました。



説明する田口指導員



写真左：絵を担当した本間かりんさん

地域の方々とふれあうなかで、聞き出した内容がパネルという“かたち”にまとめられたことで話してくれた地域の方々の記憶がさらに呼び起こされ、目はますます輝きを増したように見えました。



話してくれた大滝さんと三浦さん

作成したパネルは、7月1日に開催される大鳥音楽祭で披露されます。その後も、大鳥にあるタキタロウ館に展示される予定ですので、ぜひご覧ください。

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～農村環境保全指導員の活動状況7～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

7月2日(日)、鶴岡市藤島地域の佐藤友二農村環境保全指導員が田んぼの学校を行いました。

まずは、田んぼの除草体験。

この田んぼでは、除草剤を使わず、カモが泳ぎ回することで、雑草の生育を抑える栽培をしています。

カモも人間と同じで、動きものもいればそうでないものも。カモだけに任せておくことはできないため、人の手も必要です。除草作業にはたいへん、労力を要します。

この田んぼを管理している飯鉢さんは、「安全安心=おいしい」とは限らない、農薬を使わなくてもおいしくなければ買ってくれない・・・生産者の努力とその思いをお話いただきました。



カモを守るため電気柵を設置



イネと雑草の違い 分かるかな？

続いて、夏を目前に、救急救命の講習。



胸骨圧迫の方法



圧迫したら戻す、これを30回繰り返す

救急救命について、消防署職員の方々が丁寧に説明してくれました。

救急車が駆けつけるまで、通常8分ほどかかるといわれています。その間、救命措置を行うことで、救える可能性は2倍高くなるとのこと。ぜひ、身につけておきたいものです。

地域で安全安心に暮らすための方法を学ぶ機会となりました。

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～農村環境保全指導員の活動状況8～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

7月6日(木)、鶴岡市温海地域の五十嵐敏也農村環境保全指導員の活動に行ってきました。

五十嵐さんは小学校の廃校跡を利用した「小国ふるさとふれあい村楯山荘」の管理人もしています。

今回は鶴岡市立あつみ小学校5学年自然教室「海に親しもう」「山に親しもう」「川に親しもう」の2泊3日のうち「川に親しもう」のお手伝い。

一昨日の豪雨により庄内小国川が増水しているため、川の観察・生き物調べは中止し、小国在住の今井秀雄さんから川のお魚についてお話しいただきました。



小国が好きで移住した今井さん



川が増水し濁ったら、魚はどこに？

同じサケ科でも生態が異なる「サクラマス」と「サケ」。「アユ」の口が大きい理由など、興味深い話ばかり。川での活動にあたり、自分の膝までの水位の場合は、絶対に入らないようにと注意もいただきました。

最後に、楯山荘の中を探検。

各教室は、宿泊室となっており、蒲団が敷いてあります。五十嵐さんは、授業の始まりと終わりを告げる大きな鐘を鳴らして、子どもたちを驚かせていました。



本日以降も、五十嵐さんの活動は目白押し。

7月下旬から多くの団体が楯山荘を訪れ、豊かな自然に触れる活動を行います。

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～飛鳥農道側溝泥上げ・路面掃き作業～



7月7日、農村計画課・農村整備課等職員有志による飛鳥地区の農道側溝の泥上げ、路面掃きのボランティア活動を行いました。

飛鳥を縦貫する農道は、農業農村整備事業(農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業)で造られたもので、完了から20年余りが経過しました。施設の老朽化に伴い、より一層の適時的確な維持管理が必要とされているところです。

平成24年度から始めたボランティア活動は、今回で5回目。これまで延べ80名以上の職員が参加してきました。



今回は18名が参加



草や泥を撤去してマスの詰まりを防ぐ



雨で湿った側溝の泥は重いっ



天候にも恵まれ、参加した18名は、汗を流しながら、こころも身体も充実した活動ができました。翌8日は、飛鳥の研修と探検。



無料自転車で移動



「渚の鐘」で記念撮影



おもてなしの一環「公衆トイレ」の説明



飛鳥大橋建設時の手続きと苦労話



飛鳥には、多くのボランティア団体が訪れていますが、観光客は減少傾向にあります。私たちができることは何か、農業農村整備でバックアップできることはないか、これからも考えていきます。

～農村環境保全指導員の活動状況～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

7月15日(土)、鶴岡市鶴岡地域の鈴木正農村環境保全指導員の活動に行ってきました。

今回は、三瀬地内『ひゃくねん森』付近の法面へのカバープランツ(ヒメイワダレソウ)の植栽です。



植栽して3年経過した法面からポットに株分けし、法面上部に植栽



ヒメイワダレソウ



3年経過した法面

ヒメイワダレソウの根は、法面を覆うように伸びて雑草の入ってくる余地はありません。法面の草刈りの手間を減らすだけでなく、長く楽しめるヒメイワダレソウの花が地域のビューポイントになれば、と考えています。

今回は、三瀬孟宗研究会、新研究会の方々を中心に10名ほど集まりました。鈴木指導員が企画する活動は、いろいろな世代・団体を組み合わせるようしており、一緒に活動することで知り合うきっかけを作り、お互いが気持ちよく作業を行うことで、次につなげようとしています。

広報誌『農楽里(norari)』vol.26秋号では、地域活性化のために活躍する農村環境保全指導員の皆さんを特集します。庄内は、鈴木指導員の活動とその想いを取材しました。これから記事にまとめますので、お楽しみに。



やまがたの農山漁村づくり情報マガジン『農楽里(norari)』はこちら。
<http://www.pref.yamagata.jp/purpose/koho/kohoshi/6140017norari.html>

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

7月15日(土)、鶴岡市榊引地域の粕淵朋美農村環境保全指導員の活動に行ってきました。

今回は、『ぶどう樹液で化粧水作り』『アロマで作る虫よけスプレー』『チクチク針仕事で動物づくり』。



聞きながら配合してみる



下絵を描いてみよう

参加者は、女性や家族連れの方々が多く、りんごの木の下で、にこやかに作業をしていました。

粕淵さんには、今年の4月から農村環境保全指導員を委嘱しています。



委嘱状の交付

4年間、よろしくお願いします。

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～ようやく咲いたあさがお～



5月下旬に種を播いたあさがお。
今年はまだなかなか花を咲かせません。
葉は青々としていますが、花芽が見当たらない状況でした。



7月13日の状況

いろいろと調べてみると、常に水を与え、十分な栄養を与えすぎたため、子孫を残す努力をしない＝花を付けない状態になったようです。

そこで、昨日までの三連休、なにもせずに見守ってみました。
すると、今朝、きれいな花をみせてくれました。



過保護ではいけないんですね。
勉強になりました。

～田んぼからメダカ保全池へ～



6月9日に庄内町家根合地域のめだかの里米水田に放流したメダカは、恒例となっている保全池への引越しの時期を迎えました。



せき止めた排水路へ田んぼの水を一気に抜くと、メダカは排水路に移動。それをタモですくいます。余目第一公民館事業「親子DE楽笑くらぶ」と「ふれあいホーム家根合」の子どもたち37名が一斉に捕まえました。今年は、赤ちゃんメダカやドジョウがたくさん。夕方になっても30度を超える暑さでしたが、それでも、みんな元気でした。捕まえたメダカは、保全池へ引越しますが、お家で観察できる子どもたちは、お土産として持ち帰りました。



持ち帰り用を準備



大事に育ててね



ペットボトルで作った“めだかのおうち”

中干しは、田んぼの稲が強く丈夫に育つように、行う作業です。引越したメダカも、保全池で大きく成長し、家根合地域全体で守られていきます。

NPO法人 家根合生態系保全活動センターが中心になり、地域の大人も子どもも、みんなが関わって、環境保全を意識した活動が行われています。

～農村環境保全指導員の活動状況11～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

7月29日(土)、酒田市松山地域の日下部智康農村環境保全指導員の活動に行ってきました。

今回は、『カブトムシの里ウォッチング』。
カブトムシの捕まえ方、習性について学びました。



カブトムシを捕まえよう(トラップを見に行こう)



習性を活用したカブトムシ相撲

カブトムシの成虫は、夜行性。地域の子どもたちは早起きして里山を満喫しました。

日下部さんは、松山多目的公園周囲をフィールドに「ホタル」「カブトムシ」「モリアオガエル」の観察や環境保全、憩いの場を作る取組みを行っています。

これまでは、山寺地域の住民を対象にしましたが、今後は松山地域全体に活動を広げたいと話していました。



委嘱状の交付

日下部さんは、今年の4月に農村環境保全指導員の委嘱期間を更新しています。
引き続き、4年間よろしくお願いします。

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～農村環境保全指導員の活動状況12～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

8月5日(土)、庄内町立川地域の小野寺博農村環境保全指導員の活動に行ってきました。

今回は、『わんぱくザッコ釣り大会』。

荒鍋内川農村公園で、地域の子どもたちを対象に、地域の自然にふれ、地域の方々とふれあうことを目的に毎年実施されているものです。



幼稚園児から中学生まで7名の子どもが参加 地域住民が指導役



スッキリ晴れた空の下、ゆったりとした時間 大きさ、数ともに1位！賞品をどうぞ

今日の釣果は、ニゴイ2匹、雑魚5匹、ブラックバス2匹、ブルーギル2匹。

小野寺指導員は、地域の環境を守る活動のひとつとして、毎秋、外来種の駆除を行っています。なかなか全滅とまではいかないようです。地道な活動が重要であることを再認識したザッコ釣り大会となりました。

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～農村環境保全指導員の活動状況13～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

8月6日(日)、鶴岡市藤島地域の佐藤友二農村環境保全指導員の活動に行ってきました。

今回は、ふじしま夏まつりを盛り上げる活動のひとつ『魚のつかみどり大会』。

魚のつかみどりをとおして、地域住民が関心を失いつつある水辺の空間について、「地域の資産」としての価値を再認識してもらうことをねらいとして、毎年実施されているものです。



中学校ボランティアも参加して、みんなで水路の清掃 ケガのないように小石も拾う



いよいよ受付開始



早く捕まえたいな～



未就学児の金魚のつかみどり



4～6年生のイワナのつかみどり

暑い1日でした。

中学生ボランティア、JA庄内たがわ、鶴岡市藤島庁舎、東北農政局、庄内総合支庁職員らが清掃と大会スタッフとして参加しました。

ケガなく楽しんでいただくための準備、企画を成功させるためのお手伝い、これらの活動は、地域の資産を守り、受け継ぐための教育の場にもなっています。

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。



8月17日、鶴岡市羽黒町川代に行ってきました。
地元農業者で組織するハグロファームが耕作放棄地を再生する取組みとして植えているものです。



今年の見ごろは、例年より1週間ほど遅め。



笑顔のひまわりが待っています

～2017夏号 配信しています～



元気な農山漁村を作っていきたい、農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい・・・『農楽里norari』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、既に参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する“職員手作り”の情報誌です。

夏号は、8月23日に山形県HPIにアップされました。

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里(norari)」夏号の詳細(PDF:4.3MB)

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari.html>



今回の特集は、協働のちから。

昔ながらの農村風景を地域の力で守っていく『多面的機能支払交付金』。県内各地の取り組みから、その意義を改めて考えてみよう企画しました。

庄内からは、遊佐町農地・水・環境保全組織連合会の取り組みを紹介しています。
ぜひご覧ください。

～あさがおと落花生～



8月25日、当課ベランダの状況です。



涼しげなあさがお



真っ白な花も

初めて見ました、落花生の花。どのような流れで落花生になっていくのか、見守っていきたいと思います。



24日8時から25日6時までの降水量は、酒田市上草津で110.5mm、鶴岡市榊引で74.0mmとなりました。
河川水位の急激な上昇に留意し、庄内管内の市町、土地改良区では、被災状況調査が始まっています。自らの安全を第一で、調査をお願いします。
大きな被害が発生していないことを祈ります。

～環境に配慮した整備計画のために～



9月5日、ほ場整備事業の要望があがっている鶴岡市宝谷地区において、地域の現状を把握する手段のひとつとして、生き物調査を行いました。

宝谷地域の方3名、庄内赤川土地改良区3名、当課8名が2班に分かれて調査しました。



調査方法の打合せ



用排水路に何がいるかな？



大量のアカハライモリ



種類と個体数を記録

稲刈りを前に、田んぼには水がない状態ですが、トノサマガエルやドジョウ、カワニナなど、数種類の生き物を確認できました。

現在、宝谷はそばの花が満開。
久しぶりに暑い1日となりました。



宝谷といえば、『宝谷そば』。
地域で育てたそば、地域で採れた野菜のてんぷら。香ばしいそば茶とそばかりんとう。
一から育てた宝谷づくしの逸品です。是非お試しください。



これで1,000円。おなかいっぱい。

『宝谷そば』は、土日限定の営業。
平日は5名以上で事前予約が必要です。

～ミズバショウのポット苗づくり～



9月11日、鶴岡市立西郷小学校において、6年生の皆さんがミズバショウのポット苗づくりを行いました。
庄内総合支庁農村整備課では、平成21年度から西郷北部地区県営ほ場整備事業に着手しており、それをきっかけに西郷小学校の皆さんと総合学習の時間を利用して、環境学習を行っています。
ほ場整備事業ってなんだろう？という事前学習に始まり、事業により田んぼの区画が大きくなったり、開水路が管水路に替わることで地域の環境はどのように変化していくのか、地域の環境を守っていくには？という視点で、ミズバショウの苗を西茨湿原に移植するなどの環境学習を実施しています。



ポット苗づくりの作業状況



湿地から採取した種子を芽だしたもの



ポットの半分まで土を入れ2株を植える 乾燥防止のため水苔で覆って出来上がり

10月には、水路の土砂上げ作業を体験し、施設の維持管理の必要性を学習する予定です。

自分たちが住んでいる地域がどのように維持されているのか、環境が変わっても、地域にとって変わらず必要なものってなんだろう、総合学習を通じて感じとってほしいと思います。

～農山村で生きていく～



9月14日、山形県高度技術研究開発センター 多目的ホールにおいて、中山間地域振興シンポジウムが行われました。中山間地域では後継者不足が深刻となるなど、地域を守っていくための人の確保が大きな課題となっています。県内外の取り組み事例や中山間地に関わって生活している方の話を聞くことにより、自らの地域の取組みに生かしてもらおうと開催したもので、県内の中山間地域等直接支払や多面的機能支払関係者、地域活動団体、市町村、土地改良区の方々200名ほどが集まりました。



基調講演「田園回帰 先進地と東北の事例から学ぶ」 岩手大学 広田教授

移住定住対策は地域を維持し活性化していくための地域政策。地域や行政がどこまで腹をくくってやるのか本気度が試される。

続いて、県内外で地域おこしに携わっている3名の方から実践報告が行われました。

庄内からは鶴岡市福栄地域おこし協力隊の石井さんがUターンしたきっかけと地域おこし協力隊の活動における地域とのかわりについて語っていただきました。



(石井さんの報告の概要)

- ・中山間地域は資源が多く恵まれている。地域の方々にその価値やよさを知ってもらい、ないものねだりではなく、今あるもの(資源)をどう活用し、生かしていくかを考えて実践。
- ・生産・加工(商品開発)・販売(販路開拓)の共同作業体制づくり(地域住民から得意分野で作業協力をいただき、それに謝金を支払うかたちで、地域と関わりあって成り立つ仕組みを作っている)。
- ・地域の人が楽しみ、地域を誇りに思う、そのきっかけをつくる活動をしていきたい。

引き続き、実践報告をした3名がパネラーとなって、パネルディスカッションが行われました。

移住してよかったこと、移住者は増えたほうがいい？、地元に入っていける移住者を増やすには？これら3つの視点でこれまでの経験を踏まえた生の声を聞くことができました。



いかに地域の魅力を発信していくかを重視している地域は多いですが、移住者を受け入れる体制が整っている地域はまだ少ないように思います。

移住者は地域に何を求め、地域は移住者から何を求められているのか。

地域を維持し、活性化させるためには、地域政策として移住定住対策にどう取り組んでいくか。地域や行政がどう向き合っていくかを改めて考える機会となりました。

～鶴岡市宝谷地区～



先日、生きもの調査を実施した鶴岡市宝谷地区で、そばの「お花見カフェ～豊穰祈願音楽祭」が開催されました。宝谷地区では、農事組合法人「宝谷」が中心となり、「ふるさとむら宝谷」で提供するそばを地区内で栽培しています。



そばの「お花見カフェ」は今年で5回目。見ごろを迎えたそばの白い花が一面に広がる畑の中で、酒田市在住のかおりん・SAXさんによるサクソフォンの演奏が行われ、歌謡曲や洋楽などさまざまな曲が奏でられ、集まった観客を魅了しました。



会場では、わんこそばのほかに、そばいなり、のり巻、そばを使ったかりんとう、おこし、だんご、プリンなどのスイーツ、そしてそば茶やそばオーレが振舞われました。



鶴岡市のそば栽培面積は県内1位。

10月末から11月上旬にかけて、市内各地で新そばまつりが開催されます。おいしい新そばを食べに、ぜひお越しください。



～『谷口がっこそば』にて～



9月19日、最上・庄内管内農村環境保全指導員研修会を最上郡金山町『谷口がっこそば』で行いました。
最上と庄内の合同研修は、6月の庄内研修に続き2回目です。
今回の活動報告は、金山町農村環境保全指導員の庄司博司さん。
閉校した谷口分校を活用し、そば打ち体験をはじめ年4回、四季に応じた農村体験等(四季の学校)による交流活動を行っています。



平成8年、金山小学校谷口分校が閉校することに。思い出の校舎を維持し、地域の活性化を図ろうと、地域の有志が分校を活用した農業・農村体験「四季の学校谷口」を実施。山菜採りや薪割、雪下ろしなどの体験の場を提供している。また、地元産物を活用した「谷口がっこそば」を開店し、地域と都市との交流の場を創っている。



研修の状況

「谷口がっこそば」は平成28年に20周年を迎え、関わってきた方々もそれぞれ歳をとりました。ここでひと区切り、とうとうに金山町地域おこし協力隊の菅谷さんが経営を引き継いでくれることに。来年度以降、現協力隊の2名の方々が経営に携わる予定ということで、地域の皆さんも元気を取り戻しています。

庄司農村環境保全指導員は、「これまで3つの奇跡があった。一つ目は、多くのアドバイスやアイデアを地域外の方々からいただき、分校の活用を始めたこと。2つ目は、スタッフに恵まれて20年続いたこと。3つ目は、強力な3名が継いでくれたこと」とおっしゃっていました。

廃校を活用する動きは各地に波及しています。庄司さんは、マネされると営業妨害にならないか、とよく尋ねられるそうです。「各地域同じ景色はない、同じ人情はない、お互いを参考にそれぞれがよくなる活動ができれば、それが地域の活性化になる。各地に広がることは誇らしいこと」

庄司さんのこれまでの活動や地域への思いが伝わる応えでした。

昼食は、菅谷店長の打ちたてのそば、揚げそばをいただきました。



板そば



ふわっカリッの揚げそば

午後から、金山町を案内いただきました。他地域に先駆けて景観条例を制定し、守られている町並み。町の歴史を学びました。



地域を元気にするには、地域を愛する多くの方々の力が重要なことを改めて実感した研修でした。

～冬号春号の編集会議～



元気な農山漁村を作っていきたい、農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい・・・『農楽里norari』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、既に参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する“職員手作り”の情報誌です。

9月22日、15名の編集委員が県庁に集まり、冬号春号の編集会議を行いました。



2班に分かれ特集テーマについて話し合い 農業農村整備にかかわる題材でまとめよう



取り上げる内容を様々な視点で検討 「ここははずせない」取材ポイントの確認

これから、各総合支庁の編集委員が取材を行い、記事をまとめていきます。

『農楽里norari』の編集は、話を聞き出す取材力、地域の方々に伝える技術力等、職員の研鑽を積む場でもあります。

～山形で唯一 海が見える暮坪棚田～



写真は、山形で唯一、海が見える暮坪の棚田です。



9月24日(日)、鶴岡市暮坪の棚田で地域の子どもたちが稲刈り体験を行いました。



昨晩は雨が降り、今朝は風も吹いていないため、稲はまだ濡れています。
濡れた稲束の重みに耐えられず、杭が傾くハプニングもありましたが、子どもからお年寄りまで、声を掛け合いながら協力して作業を行いました。



がんばったよ

暮坪の棚田は、地域みんなの力で守られています。

～水土里ネットいなば恒例企画～



9月24日(日)、水土里ネットいなば企画の稲刈り体験が行われ、今回もたくさんの参加者でにぎわいました。



昨夜の雨で、田面がぬかるみ、気温の上昇も手伝って、例年より体力を消耗する稲刈り体験になりました。
お待ちかねの水土里ネットいなば特製、おいしい昼食。

今日は、庄内芋煮(みそ・豚肉)、いなば塩芋煮(塩・鶏肉)、内陸芋煮(しょうゆ・牛肉)の3種類の芋煮と新米のはえぬぎおにぎりをいただきました。



左から塩、みそ、しょうゆの芋煮

恒例のクイズは、やまがた芋煮編。
動物の足跡や花の写真からの出題「この食材が必要なのはどの鍋か？」全種類を食べないと解けない問題で、心も身体も大満足。

11月の収穫感謝祭も楽しみです。

～庄内町立余目第一小学校4年生～



9月27日、めだかの里米水田において、余目第一小学校4年生が稲刈り体験を行いました。



鎌でケガをしないように稲の持ち方も指導



束にする方法を聞く



みんなの力で杭を田んぼに刺す



まんべんなく風を当てるため互い違いに



できあがり

なかなか体験できない杭がけ作業は、地域の方々からコツを聞いて、みんなでやってみました。

児童の皆さんからは、

- ・自分たちが植えた苗がちゃんと育っていてうれしかった。
- ・稲刈りはたいへんだったけど、楽しくできた。などの感想がありました。

家根合地域の活動は、余目第一小学校とNPO法人家根合生態系保全センターが企画運営しているものです。

子どもたちが地域の自然を守りたい、という思いから始まったこれらの環境保全活動や農業体験は、今年で18年目になりました。

来年の稲刈り体験は、コンバインでの刈取り体験を行うとのこと。

どんな体験になるのか、今から楽しみです。